

Citation: Coulthard P, Yong SL, Adamson L, Warburton A, Worthington HV, Esposito M, Sharif MO. Domestic violence screening and intervention programmes for adults with dental or facial injury. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2010, Issue 12. Art. No.: CD004486. DOI: 10.1002/14651858.CD004486.pub3.

CRG名: Cochrane Oral Health Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 20 October 2010

Clib issue No.; N/U: 2010 issue 12, Update

背景: 家庭内暴力は世界中のすべてのコミュニティに存在する。保健医療サービスは、家庭内暴力の確認・評価・対応に重要な役割を有する。顔面が暴行の一般的な標的となるため、歯や顔面に損傷が示されることから、歯科医や口腔顎顔面外科医が家庭内暴力をスクリーニングする唯一の存在となる。歯科医や口腔顎顔面外科医は訓練されていないため、家庭内暴力を経験している人に助言を与える最善の人間ではないと思われる。虐待関係のままにしておくようにするなどの不適切な助言は暴力の頻度を増大させることがある。介入と支援のため専門機関に紹介することがより適切であると思われる。そのことから、スクリーニングおよび介入プログラムが有効か否かを知ることは役立つであろう。

目的: 1) 歯および/または顔面に損傷のある成人における家庭内暴力を減じたり防止したりするために用いられる介入プログラムの有効性と有害性を評価する。
(2) 歯および/または顔面の損傷で受診する成人の家庭内暴力犠牲者のスクリーニング、および犠牲者の割合を検出するための様々なスクリーニング・ツールの有効性と有害性を評価する。

検索戦略: 以下の電子データベースを検索した: Cochrane Oral Health Group Trials Register(2010年5月18日まで)、Cochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)(コクラン・ライブラリ 2010年第2号)、OVID経由MEDLINE(1950年から2010年5月18日まで)、OVID経由EMBASE(1980年から2010年5月18日まで)、OVID経由PsycINFO(1950年から2010年5月18日まで)、BIREME経由LILACS(1982年から2010年5月18日まで)、EBSCO経由CINAHL(1980年から2010年5月18日)。言語や発表日に関して制限はなかった。

選択基準: なんらかの保健医療の場において家庭内暴力に関連する歯や顔面の損傷で受診した16歳以上の成人を対象としたランダム化比較試験(RCT)。

データ収集と分析: 2人のレビューアが二重かつ独自に適格な研究の選別を行った。結果は、連続アウトカムに対して平均差および二値アウトカムに対しては相対リスクを95%信頼区間と共に用いるランダム効果モデルとして表すこととした。異質性について臨床的因子と方法論的因子のいずれをも含めて検討することとした。

主な結果: 適格なRCTは同定されなかった。

レビューアの結論: 歯や顔面に損傷がある成人において家庭内暴力のスクリーニングが有益であるか、または有害性を生じるかを支持または否定するRCTからのエビデンスはない。家庭内暴力を発見するためのスクリーニング・ツールは存在するが、歯や顔面の損傷で受診する患者に対して有効性を明確に評価したRCTはない。介入プログラムが身体的暴行の頻度を減じ、顔面損傷の重症度を軽減するのに有効であるという(RCTからの)エビデンスも不足している。

(監訳 江藤 宏美)
翻訳公開日: 2011年7月12日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。